平成30年度　第3回生駒市環境審議会　会議録

１　開催日時　　平成３０年１０月２４日（水）９時３０分～１１時２６分
２　開催場所　　生駒市役所　４階　４０１・４０２会議室
３　審議事項
（１）第３次生駒市環境基本計画の策定について
（２）その他

（以下、敬称略）

４　会議出席者

会長	中西達也	
副会長	水谷知生	
委員	下村晴意　山田耕三　河瀬玲奈　藤澤清二　上武敏一	
	池田憲央　竹本和靖　矢田千鶴子　遊津隆義　横井明弘　山本裕子	
事務局	石畑欽一	地域活力創生部長
	奥田吉伸	市民部長
	川島健司	地域活力創生部次長兼環境モデル都市推進課長
	竹本好文	環境保全課長
	大窪奈都子	環境モデル都市推進課課長補佐
	奥田和久	環境保全課課長補佐
	木戸勇	環境保全課課長補佐
	大熊啓文	環境モデル都市推進課地球温暖化対策係長
	竹田有希	環境モデル都市推進課地球温暖化対策係員
オブザーバー	株式会社地域計画建築研究所　長澤	

５　傍聴者　　なし

９時３０分　開会

６　審議内容
（１）開会
（２）会長あいさつ
今年度に入って審議会も３回目となる。次回第４回目には環境基本計画のパブリックコメント案を審議することになり、ほぼ今日で中身をかためていく必要がある。従前どおり、忌憚のない意見を出してもらいたい。
（３）審議事項
以下、発言要旨。

中西達也会長　　会議の成立について事務局に報告を求める発言。

事務局　会議の成立について報告。全委員１４名のうち１３名の出席により会議は成立。

中西達也会長　事務局に傍聴者の報告を求める発言。

事務局　傍聴者はなし。

中西達也会長　案件１「第３次生駒市環境基本計画の策定について」審議を宣告。
事務局に説明を求める発言。

事務局　素案にもとづき、説明。第１章は大きな修正なし。

第２章は、「今後の課題」を分かりやすくするため、構成を整理した。①に現行計画の目標達成状況　②で現行計画の経過と実績を記載し、プロジェクトと市の関連事業に分けて整理しなおした。まとめとして総括を後ろに記載。③には、現行計画を推進してきた結果としての成果のうち、生駒市ならではの特長を記載した。

第３章では、自然環境の目標を「豊かで多様な自然と共生するまち」に変更しており、p. 37のリード文も自然を「活用する」書きぶりに変更している。地球環境の目標については、事務局で脱炭素なども検討したが、植林等「吸収」の話がないと「脱炭素」を目指すのは難しいため、「超低炭素」のままにしている。現状、生駒市では「吸収」に関する施策は現実的でないと考えている。p. 38の代表指標と目標値に関して、下水道普及率については、汚水処理人口普及率との併記も検討したが、第６次総合計画では下水道普及率のみを採用している。下水道整備については、市の事業として計画を立てて進行管理ができるが、合併処理浄化槽の設置事業は、市として把握できるのは補助金の交付件数くらいであり、指標には適しにくいという原課の意見があった。また、現状値を把握できない市民満足度調査の結果については、モニター指標にしている。目標値は、次回の審議会で提示予定。

第４章は、自然環境分野を①～③の切り口で整理をしなおした。①は里山を対象としている。②は農地を対象とし、獣害対策についても農地利用の促進に入れ込んだ。③はまちなかの緑が対象となっており、景観に関することも追加した。以上の整理については、水谷副会長からの意見を反映している。

第５章のリーディングプロジェクトについて。ワークショップでは４つのグループができたため、リーディングプロジェクトではそれぞれの案を反映できるように追加した。「次世代へつなげ！生駒の豊かな自然とライフスタイル」は、自然環境に関心を持つ人を増やして、次世代へ継承していくプロジェクトである。それに、「スキル・空間のシェアリングでコミュニティ力アップ！」を加えた４つをリーディングプロジェクトの案としている。

第６章計画の推進については記載のとおり。

中西達也会長　前回の議論を反映した部分、していない部分がある。まず、「超低炭素」という表現は維持したということであるので、この点について、議論したい。

遊津隆義委員　一般的に、「超低炭素」という表現はあまり見当たらない。目指すのは「低炭素」になる。パリ協定で目指すのは「ゼロ炭素」なので、「脱」であるべき。環境モデル都市として「脱」とすべきだと思う、との発言。

上武敏一委員　炭素を使わないと生活はできない。「ゼロ」は違和感がある。「ゼロ」となると生活がしばられるイメージがある、との発言。

矢田千鶴子委員　今回の計画は、１０年という長期の計画になる。１０年の間に社会情勢は大きく変わる。現時点では市民の共感が得にくいかもしれないが、先を見越すのが計画ではないかと思う。「脱」の方が目指すべき方向性を理解してもらえる気がする、との発言。

河瀬玲奈委員　絶対に炭素は排出されるので、「脱」とするなら、出た分をどうやって相殺するかを書かなければならないと思う、との発言。

矢田千鶴子委員　具体策も書いて「脱」にすればいい。市民が何をどうすればいいかも含めて書いてもらいたい、との発言。

遊津隆義委員　地球温暖化は加速する。「ゼロ」を目指さなければならない。マイナスにしていかなれければならないくらいである、との発言。

中西達也会長　「脱」になった場合、具体的な施策を追加する必要がある、との発言。

水谷知生委員　目をひくのは「再エネの地産地消」なので、「再エネの地産地消が進むまち」でもいい気がする。「脱」と書いて何ができるのかわからないのであれば、前向きな姿勢が既に出ているので、それでいいのではないか、との発言。

河瀬玲奈委員　整合性の話であり、今記載されている内容だと、「超」の方がいいと思う。整合性の観点から整理をした方がいい、との発言。

竹本和靖委員　相殺する施策は例えばどのようなものがあるのか、との質問。

遊津隆義委員　国も「脱炭素」を掲げているが、具体策があるかというとそうでもない。「超低炭素」と記載するのなら、定義づけが必要だと思う、との発言。

事務局　今回は提示していないが、目標値をどうするかという視点からも考える必要がある。「ゼロ炭素」にするなら、目標値がゼロになる必要がある、との発言。

遊津隆義委員　その考え方でいくと、「低炭素」しか無理だと思う。地球が滅びないためにどうするかが問題だ、との発言。

中西達也会長　この件については、他の議論のあと、再度検討したいと思う。先に、p.38「下水道普及率」を維持した点について議論を進めたい、との発言。

横井明弘委員　計画には合併処理浄化槽のことがたくさん出てくるので、つり合いが取れないのではないか。下水道だけできれいな環境を目指すのは違和感がある。国でも汚水処理人口普及率をあげている、との発言。

事務局　汚水処理人口普及率は数字としては出せるのだが、自分たちがコントロールできない数値を目標にするのはどうか、ということだった。横井委員の意見も含めて、再度担当課と調整したい、との発言。

中西達也会長　目標値も含めて検討してもらいたい、との発言。

水谷知生委員　第４章の自然環境の箇所について色々と意見を述べた。②農地の箇所に

は市民が取り組みやすい内容が書かれている。①里山の箇所にも、例えば「産品を選ぶ」などを入れたらいいと思う。「整備活動に参加する」だと関わる層が増えないと思う。一部の好きな人がやる活動になってしまうのは残念である。整備活動をした結果得られる産品を選ぶ、までいくと市民社会に踏み込んだ内容になる、との発言。

事務局　森林環境譲与税の仕組みにより、森林整備のお金を確保できるので、何かはやっていく。すぐに具体的な産品、とまでいかないかもしれないが、市内で経済循環ができればいいとは思っている。少し検討させてもらいたい、との回答。

中西達也会長　リード文に「産品の産出の場として見直す」とあるので、検討してもらいたい、との発言。

矢田千鶴子委員　①p.18 に掲載されている「生駒市が目指すべき理想的な将来像」のうち、「商業施設などが集中し」は「商業施設などが充実し」の方がいい。コンパクトシティをイメージしてしまう。

②p.18 課題の書き方があいまいなのでもう少し具体的にしてもらいたい、との発言。

事務局　①については、すでに実施しているアンケートの項目になるので、変更はできない。

②環境施策というと、意識の高い一握りの人だけが取り組んでいく状況になっているのが課題である。生活レベルでもっと幅広い層に取り組んでもらいたいと思っている。それを端的に表現できるように検討する、との回答。

矢田千鶴子委員　p. 21 指標２　ごみ排出量について。事業系ごみは事業者が増えており、大型施設も増えていることが要因の一つとなっている。今の表現では、事業者が努力していないように見えてしまう、との発言。

事務局　p. 12 には誤解を招かないような表現を記載しているので、p. 21 にも追記したい、との回答。

矢田千鶴子委員　p. 38 指標設定の基本的な考え方をもう少し記載した方がいい、との発言。

中西達也会長　各項目に共通する設定の理念を挙げてもらえればいいと思う、との発言。

遊津隆義委員　生駒市には厳しい目標をお願いしているのは理解しているが、環境施策で奈良県をリードしていくのは生駒市だと思っている。

①p. 21 指標の達成状況は５角形で表したらどうか。

②p. 38 指標のうち、地球環境分野の指標について、「発電容量」ではなく「再エネ比率」にすべきではないか。容量と割合の併記でもいい。「CO_2 排出量」も絶対量よりもパーセントの方がいい。

③コミュニティ分野のモニター指標はこのままでもいいが、参加者が増えれば本当に市民の意識も変わるのか、という疑問がある。インセンティブが必要。環境モデル都市として、生駒市が先陣をきって税の優遇などをやってもらいたい。

④p. 62 シェアリングエコノミーのリーディングプロジェクトの中には

移動のシェアリングも入れてもらいたい。

事務局　①p. 21 は現行計画のレーダーチャートの形式に変更する。

②再エネの指標で発電容量をあげているのは、資源エネルギー庁の公表データがあるので指標として把握しやすいからである。普及率は、今は一戸建ての住宅数に対してどれくらいか、という計算をしている。一戸建て件数も都度変動があり、母数が変わるため、最初から書き込むか、進行管理の段階で出すか検討したい。CO_2排出量については、アクションプランの目標に対してどれくらい進んでいるか内閣府に報告しているデータがあるので、調整したい。

③インセンティブの話は、具体的には炭素税や排出権取引の話になると思う。新しい税をつくるのはハードルが高いと認識している。今の時点で道を閉ざすとは思っていないが、現時点で書き込むのは困難であることを理解してもらいたい、との回答。

遊津隆義委員　エコポイントでもいいので、何かインセンティブをつけてもらいたい、との発言。

藤澤清二委員　大気汚染の状況については常時県が監視しているのか、との質問。

事務局　県が市内で常時監視しており、結果については環境白書に載せている、との回答。

遊津隆義委員　第６章に関連して、環境マネジメントシステムの体制を教えてもらいたい、との質問。

事務局　現在は、１５名の市民公募委員で環境マネジメントシステム推進会議を構成している、との回答。

矢田千鶴子委員　ワークショップに参加していたが、リーディングプロジェクトを進める体制がイメージできない。第５章にあがっていないその他のプロジェクトができるのかどうなのか。市民にとっては４つしかプロジェクトがないように見える。その次にやることが見えない。現行計画ではどのような活動をするのかは見えていたが、順次考えていくのか、との質問。

事務局　現行計画の最大の特長が、プロジェクト中心の計画であることだった。今回は、第４章で具体的な事業を書いている。年度ごとに何に取り組むか、実施したかを進行管理の中ではっきりして進めていきたい。リーディングプロジェクトについては、現行計画のプロジェクトと類似した位置づけのものである、との回答。

矢田千鶴子委員　今述べられた、計画を実現するための基本的な考え方を、どこかに追記してもらいたい、との発言。

上武敏一委員　具体的な事業にあがっていることとリーディングプロジェクトとの関係はどうなっているのか、との質問。

事務局　目標を達成するために事業もする、リーディングプロジェクトもある、ということで、特に協働でする要素の強いプロジェクトがリーディングプロジェクトである。環境面だけでなく、社会面・経済面での効果が高いものを集めている、との回答。

中西達也会長　具体的な施策とリーディングプロジェクトの関係がわかりにくいのだと思うので、p. 55の冒頭に入れてもらいたい、との発言。

遊津隆義委員　プラスチックの問題は、レジ袋有料化のことも含めて、どこかに入れてもらいたい。国も大きな目標を打ち立てている、との発言。

事務局　急に出てきた話で、国の方針もまだつかめないが、どこかで触れておきたい、との回答。

遊津隆義委員　われわれの世界では２０年も前から言われている話であり、世界の流れであるので、先進的な都市として触れるべきだと思う、との発言。

矢田千鶴子委員　市民の意識も浸透していないため、ごみの発生抑制・分別・リサイクルの箇所で触れておいた方がいいのかもしれない、との発言。

中西達也会長　これから議論が深まって、話が進むときは一気に進むと思う。「レジ袋の発生抑制をさらに進める」など、p.45で触れてもらえればいいと思う。

遊津隆義委員　エネルギービジョン策定の際にも発言したが、バイオマス発電を斑鳩町もやっているので、生駒市でもやってもらいたい、との発言。

事務局　現在、生ごみをエコパークでたい肥化し、発電もしているが、処理施設の容量の問題がある。家庭ごみまで受け入れられないという現状がある、との発言。

遊津隆義委員　県ではバイオマス発電を実施しているので、食品残渣について、事業者や大学を巻き込んでやってもらいたい、との発言。

河瀬玲奈委員　リーディングプロジェクトとSDGsとの関係について。「想定される成果」とのつながりが見えにくいものもある。イラストとの整合性の点で理解できないものもあるので、整理が必要である、との発言。

遊津隆義委員　まったく同感で、p.4のコラムにある、環境と関連する項目の書き方についても疑問がある、との発言。

中西達也会長　イラストはあった方がいいと思うが、どれを記載するかは検討してもらいたい、との発言。

竹本和靖委員　第６章にある「計画の進行管理」について、チェックの主体は市民であるとのことなので、その旨をもう少し強調してもらいたい、との発言。

中西達也会長　他の自治体と違うところなので、入れてもらいたい、との発言。

上武敏一委員　CO_2をどれくらい吸収しているのかはわかるのか、との質問。

事務局　吸収については、ほとんどゼロに近いということしか出せていない。既に存在している森林についてはカウントする方法を内閣府もとっていない。今排出しているCO_2をどう減らしてゼロにするのか、減らす方のカウントをもとめられている。生駒市の場合は、緑を増やすのは難しいという状況がある、との回答。

上武敏一委員　県全体でいうと、森林が多いから、吸収しているのかもしれない、との発言。

中西達也会長　個人的な意見としては、「脱」にしたからといって整合性をとらなければならないわけではないと思っている、との発言。

遊津隆義委員　p.3に「脱炭素」とあるから、整合性の話もある、との発言。

事務局　行政としては、「超低炭素」と打ち出しているのが生駒だけなので、そういう意味で象徴的な意味があるのではないか、と思っている、との発言。

遊津隆義委員　個人的には面白いと思うが、定義を聞かれると思う、との発言。

中西達也会長　「超低炭素」でいいかどうか。その裏には「脱炭素」があるということをわかってもらえればいい、との問いかけ。（反対意見はなく、「超低炭素」に決定。）

矢田千鶴子委員　p. 19の記載方法について、リード文と何をするのかがすべて平文になっている。わかりにくいので、スタイルを変更した方がいいのではないか。

p. 66「生駒市の環境」には括弧が必要で、「環境審議会」に括弧は不要ではないか。

p. 38にあるモニター指標についての説明文をわかりやすくしてもらいたい、との発言。

池田憲央委員　里山について、生駒では個人の持ち主が多い。高齢化により、竹の寒干しなども今はできていない。農地については、高齢化に加え、農業を営む環境が悪くなっており、兼業農家がほとんどである。家で消費した残りを出荷しているのが現状であり、それで生計を立ている人はほとんどいない。この取組で本当に緑を守れるのか疑問がある、との発言。

事務局　里山や農地の持ち主だけに管理を任せるのは難しくなってきている。多様な人の力を借りる仕組みが必要。農地を守るようなシェアの考え方も必要になってくる。スキルや力を出す人を増やすなど、農地を守る取組が必要だと思う、との発言。

池田憲央委員　生駒の農地は段々になっており、高山ではイノシシも出てきている。そのような状況で、何か打開策があればいいと思う、との発言。

中西達也会長　何かいいやり方があれば提案してもらいたい、との発言。

案件１の審議を終了。

事務局　次回は１１月１６日の９時３０分から開催する。

１１時２６分　閉会